

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年8月4日

Nature:

NIHがロングコロナ治療トライアルを開始：専門家はどう見るか

【松崎雑感】

米国NIH（National Institutes of Health）が数万人を対象としたロングコロナ治療トライアルを始めました。ウイルスの残党徹底除去のためのパクスロビド長期投与、脳トレなど「意欲的な」プログラムが用意されています。ただし、投資に見合う成果が得られるかは「リスクの大きなギャンブル」的な面があるようです。でも数千万人のロングコロナの人々の苦しみを減らすために、この様なトライアルが是非とも必要です。

NIHがロングコロナ治療トライアルを開始：専門家はどう見るか

Kozlov M. NIH launches trials for long-COVID treatments: what scientists think [published online ahead of print, 2023 Aug 1]. *Nature*. 2023;10.1038/d41586-023-02472-1. doi:10.1038/d41586-023-02472-1

ブレインフォグ、不眠などを対象とした史上最大のロングコロナ治療トライアルが始まった

米国のNIHは、ロングコロナ治療トライアルを開始した。ターゲットはブレインフォグと睡眠障害などである。

NIHに対して、世界中で6500万人が悩んでいるロングコロナの治療に対して、12億ドルが投入されたRECOVERトライアルで目立った成果が出ていないと批判が寄せられたことを受けたものである

RECOVERトライアルのコーディネーター、ノースカロライナ大学のカネシア・ツィンマーマン氏は、臨床トライアルを始めるまでには、プロトコール作成、専門家と患者からトライアル参加の承諾を得るなど様々なプロセスが必要だと語った。

本誌がインタビューした専門家は、トライアル立ち上げを成功させるためには、ロングコロナの人々に対して政府当局が治療法を突き止める本気の意志を伝える必要があるだろうと述べている。

スクリプス研究所の副所長エリック・トポル氏は「これまでこのようなトライアルが始まっていないことが極めて残念だ。ロングコロナのために大変な目に合っている人々はNIHのトライアルに大きな期待を持っている」と語った。

多種多様な症状

NIHはすでに、一件の第二相トライアルを進めている。今後数か月以内に三件のトライアルを開始する予定である。

具体的には、体内に残存する新型コロナウイルスに抗ウイルス薬を投与して、症状消失を速めることができるかどうか、あるいは、ブレインフォグや記憶障害を解消できるか、睡眠障害を緩和できるか、倦怠感を低減できるか、自律神経障害を改善できるかなどを目標としたトライアルである。

NIHの機関のひとつである国立神経病脳卒中研究所所長ウォルター・コロシエツツ氏は、記者会見で、今回のNIHトライアルを、意欲的だがうまくいくかどうか分からないと述べている。

これまで世界中で小規模なトライアルが行われてきたが、多種多様な症状に見合った治療法を探るトライアルは行われていない。

最初のトライアルは、感染急性期に5日間投与する抗ウイルス薬パクスロビドを15日あるいは25日間投与してロングコロナ症状が提言するかどうかをみるものである。

ブレインフォグに対する治療トライアルは数週間のうちを開始されるという。具体的には、オンラインの脳トレプログラムに加えて、自宅でできる脳刺激器具を用いた治療を行うという。

バンダービルト大学医療センターの神経精神科専門家ジム・ジャクソン氏は、このトライアルの包括性を評価するという。このトライアルで効果が確認されたなら、自宅での自己治療が可能となるからである。

睡眠障害（過眠）に対しては覚醒状態促進薬solriamfetol および modafinilを投与するとともに、光線療法を併用する、不眠に対してはメラトニンを投与し、良眠を得るためのアドバイスを行う。

自律神経障害に対しては、心不全治療薬のivabradineを投与し、免疫増強抗体薬の静脈内投与を行うという。

5番目のトライアルは、倦怠感改善を目指すものだが、運動療法がかえって病状を悪化させる恐れがあるという指摘があったため、プロトコルの見直しが行われている。ツインマーマン氏はNIHが積極的に患者と専門家に働きかけて治療法を明らかにするスタンスをとっていると評価している。

治験参加者の募集が遅れている

NIHは昨年未までに24000人をRECOVERトライアルにエントリーさせている。しかしこれは当初の必要数4万人を大きく下回っている。

これは、ロングコロナを患い、体調不良に陥っている人々が、自分でエントリーするという受動的な仕組みになっているためであり、デジタル情報に基づいて、積極的にリクルートする仕組みになっていないためである。

ワイル・コーネルメディシンの認知神経学者アンナ・ノルドヴィグ氏は、政府当局が積極的にこのトライアルに関与していることを歓迎している。トライアル参加者を早く増やしてほしいが、官民こぞって事業を進める体制ができていることは喜ばしいと語った。

今回のトライアル開始にあたり、連邦政府はOffice of Long COVID Research and Practiceと言う部局を新設して、トライアルのコーディネートを行うようになった。この部局は1年前に設置が提案され、保健社会福祉省の中に設置された。ただし、予算不足のために常勤職員が二人配置されるにとどまった。

この第二期RECOVERトライアルの資金集めは難しそうである。バイデン政権がこの5月に、緊急事態終了を宣言したため、連邦議会は、ロングコロナ治療にほとんど関心を持たない状況になっている。

ロングコロナの人々は、こうした現状を「完全に見放された」と感じている。しかし今回の新たなトライアル開始で流れが変わることを期待しているだろう。